令和８年度第２回　沼田市中小企業・小規模企業振興会議　会議概要

１　日　時　令和８年１０月２８日（水）午前１０時～１０時５５分

２　場　所　テラス沼田５階　第２委員会室

３　出席者　須田恭弘委員、近藤義晶委員、小菅伸一委員、須藤崇委員、青木陽介委員、田邉一樹委員、田中栄一委員、（事務局：産業振興課長、産業振興係長、商工振興係長、企業誘致推進室長）

４　内　容

【１　委員交代に係るあいさつ】

10 月１日から就任した須藤委員からあいさつ

私は沼田市の出身でして、金融団を代表いたしまして、積極的に意見交換に参加させていただきます。 何卒よろしくお願いいたします。

【２　開会】　　進行：産業振興課長

【３　会長あいさつ】

皆さんおはようございます。ご参集くださいまして誠にありがとうございます。２週間ぐらい前、100 歳以上の高齢者が 10 万人を超えたという記事が出ていました。女性が ９割、男性が１割で、平均寿命は男性が 81 歳で、女性が約 87 歳ということで、６歳差があるということですが、いよいよ高齢化社会ということで、私どもの会社もそうですけれども、いかに高齢者に健康で働いてもらうかという、環境作りが一番大事じゃないかと。今、やはり子供が少ない。若い人を入れたいけれども入らない中小企業ということで、大変苦労しているところですけれど、是非、若い人に沼田に来ていただいて、働いてもらえるような環境が醸成されるよう、こういう会議を通して何かよい意見を出しながら、私もそうですけど、皆さんも企業もそうですし、いろんなところから活気付けられればよいと思っているところです。どうぞよろしくお願いします。

【４　議事】条例第 16 条第 1 項の規定に基づき、会長進行

（１）中小企業、小規模企業振興施策について

－【資料１】【資料２】【資料３】について事務局説明　－

（２）質疑応答

資料１　質疑なし

資料２　質疑なし

資料３　質疑あり

【田中委員】先日、上毛新聞の中で、この数字についての発表がありまして、令和令和 32 年には 27,000 人よりももう少し減少するという予想でありましたが、これを

もっと下回るという予想されているのでしょうか。

【事務局】令和７年度の国勢調査において、すでにこの立地適正化計画の推計で出した数値よりも下回っているという結果をみますと、委員のおっしゃるとおりで、加速度的に減少が進むのではないかという認識でございます。

【田中委員】川田地区では小学校の児童数が約 80 人から翌年度には 50 人台まで減少する見込みで、1 学年が 9 人程度となる学年もあります。児童数の減少は、学校運営だけでなく、補助金などの条件にも関わる学童保育の存続にも影響するおそれがあります。

人口は地域の基盤であり、人口減少は産業振興や地域経済をはじめ、幅広い分野に大きな影響を及ぼします。今後は特に若い世代にとって、より深刻な課題となることが懸念されます。

（２）意見交換　議題：「職場環境の充実のための取り組み」

【小菅委員】人口減少により若い人材の確保が難しくなる中、企業が選ばれるためには、働きやすい職場環境を整えることが重要です。取り組みとしては、次の 3 点が挙げられます。１オフィス・設備など物理的環境の改善、２テレワークやフレックスタイムなど制度・仕組みの整備、３コミュニケーション、心理的安全性、健康支援の充実。特に、高齢化が進む中では、従業員が健康で長く働けるよう支援する「健康経営」が有効です。健康診断にとどまらず、従業員の健康を経営上の重要な資産として守ることで、経営の安定や企業の魅力向上につながります。健康経営優良法人の認定なども活用し、「従業員を大切にする会社」として若い人材に選ばれる職場を目指すことが必要です。

【須藤委員】群馬銀行では、健康経営優良法人の上位 500 社に継続して選ばれ、東京証券取引所の「健康経営銘柄」にも 2 年連続で選定されています。

現在は、健康経営に加え、女性活躍を示す「えるぼし認定」や子育て支援の「くるみん認定」などへの取組が、採用競争力につながっています。特に女性や子育て世代は、結婚・出産後も安心して働ける制度があるかを重視する傾向があります。

人口減少・高齢化が進む地域では、医療・介護分野を含めた人材確保が大きな課題となります。そのため、若者だけでなく、U ターンする人や高齢者にも選ばれる職場づくりが重要です。外部認定の取得により、働きやすさを客観的に示すことができます。

また、高齢者が働き続けやすいよう、エレベーター内に休憩用の椅子の設置をするなど小さな工夫をし、建物・設備面での配慮を進めることも、今後の職場環境充実に必要です。

【青木委員】学校では、地域に愛され、児童生徒や保護者から選ばれる特色ある学校づくりが求められています。そのため、授業だけでなく部活動や校外活動などにも取り組む必要があります。

一方で、校務分掌などの業務が特定の教職員に偏らないよう、個人任せにせずチームで進めることを重視しています。ベテランから若手への知識・技術の継承を進めるとともに、ICT を活用できるよう職員研修も実施しています。

また、活動内容を共有し、互いの取組を認め合うことで孤立を防ぎ、風通しのよい職場づくりを目指しています。勤務時間の課題にも配慮し、休暇を取得しやすい声掛けなどを行いながら、ICT と働き方改革を生かした職場環境の改善を進めています。

【会長】質問ですが、今、利根実の進学希望と就職希望の内訳を教えていただいてもよろしいですか。

【青木委員】今年度は生徒の約 4 割が就職、約 6 割が進学を希望しており、就職希望者の約 6 割は沼田管内での就職を希望しています。地域の企業・関係者の協力を得て、インターンシップやデュアルシステムを実施し、地域に根差した人材育成を進めています。進学後に専門的な技術を身に付け、利根沼田地域へ戻って就職する生徒も多く、今後も地域密着型の学校として地域との連携を大切にしていきます。

【田邉委員】市役所では、国・県の施策や法令に基づき、働きやすい職場環境づくりを進めています。特に男性の育児休業は、以前は取得者がほとんどいませんでしたが、現在では数か月取得することが一般的になりつつあります。

また、人事評価制度では、年度目標や業務の進捗を上司と面談で確認するほか、職員が希望する異動や活かしたいスキルを申告できる仕組みがあり、上司・部下のコミュニケーションにも役立っています。

今後は、生成 AI などの活用による情報共有・業務改善、カスタマーハラスメント相談窓口の整備、高齢職員が働き続けやすい環境づくりが課題です。定年延長に伴い、役職定年後の管理職が円滑に職場になじみ、能力を発揮できる仕組みを検討しています。

【田中委員】沼田市は人口減少や財政規模の縮小により、今後は施設整備や新制度の拡大よりも、地域の実情に合わせた「スモール化」を前提に行政運営を考える必要があると思います。実際に、上水道施設整備の先送りや県立沼田女子高校跡地の取得断念など、財政的な制約が表れています。

また、職場ではパソコンやスマートフォンによる情報共有が進む一方、休暇予定などを入力するだけで直接伝えないことによる行き違いも起こり得ます。世代ごとの価値観やコミュニケーション方法の違いを理解しつつ、上司・部下が「明日休みます」「休暇ですね」と一言声を掛け合うなど、直接対話と情報共有を大切にすることが、良い職場づくりにつながると感じます。

【近藤委員】近年の求職者は、賃金を重視しつつも、人間関係、福利厚生、休暇の取りやすさ、仕事と家庭の両立など、働きやすい職場環境を重視する傾向が強まっています。多少賃金が低くても、安心して長く働ける職場を選びたいという相談も増えています。

人口減少や若年層の流出が続く沼田地域では、人材の採用・定着がますます重要です。企業は、働きやすさやワークライフバランスへの取組を、求人票や企業説明会で積極的に発信する必要があります。

そのため、「くるみん」「えるぼし」「ユースエール」「もにす」などの認定制度を活用し、取組を見える化が有効です。また、業務改善助成金や働き方改革推進支援助成金、無料相談窓口なども活用し、設備投資、デジタル化、労働時間短縮、休暇取得促進を進め、魅力ある職場づくりにつなげることが期待されます。

【須田委員】中小企業では、人員に余裕がないため、有給休暇の取得促進や賃上げ、働き方改革などの理想を一度に実現することは難しい状況です。ICT を導入しても業務量の削減にはつながるものの、必要な人員そのものを減らせるわけではありません。

また、公共事業の入札要件などに伴う継続的な賃上げは、企業経営に大きな負担となります。そのため、中小企業の実情に寄り添った、より柔軟で実効性のある国の支援策が求められています。

一方で、企業としては高齢従業員の賃金や賞与を引き上げ、責任ある仕事を担ってもらいながら、少しでも長く働き続けてもらえる環境づくりに努めています。若年人材の確保が難しい中、法令を守りつつ、従業員が定着する企業を目指して努力しているものの、制度改革の進展が現場の対応より早すぎ追いつくのが大変である状況です。

（３）その他

－事務局から説明資料口述のとおり３点連絡－

【４　閉会】